

未来に向かう力を育む

家庭教育支援・子育て支援に関わる方々のための 手引書

目標に向かって
がんばる力



- ・忍耐力（粘り強さ）
- ・自制心（がまんする力）
- ・意欲 など

人と関わる力



- ・人の気持ちを感じる力
- ・共感
- ・思いやり など

安全基地

子どもの心のよりどころ
安心できる人

気持ちを
コントロールする力

- ・自尊心
- ・自信
- ・ルールを守る など



令和 4 年 3 月
大阪府教育委員会

《はじめに》

目標に向かってがんばる力や、気持ちをコントロールする力、人と関わる力などの「未来に向かう力（非認知能力）」は、記憶力や推論する力などの「認知能力」とともに、子どもが将来、社会の中で生活していくために大事な力です。

とりわけ乳幼児期は、「未来に向かう力」の核となる部分が育まれることから、他の時期に比べて家庭で過ごす時間の長い、この時期における家庭での教育が大切になります。

一方で、核家族化の進展、共働き家庭やひとり親家庭の増加といった家庭環境の多様化、地域のつながりの希薄化などに伴い、子育てについての悩みや不安を抱えながらも身近に相談できる人がいない保護者が増加するなど、家庭教育を行う上での課題が指摘されており、地域全体で家庭教育を支える必要性が高まっています。

このため、大阪府教育委員会では、子どもの「未来に向かう力」育成に向けて、乳幼児のいる家庭の教育力向上を図る取組みを進め、保護者支援等をモデル実施しました。この取組みでは、子育て家庭に関わる様々な支援者等から、子どもの「未来に向かう力」についての情報を伝えたり、子育てに関する相談を通じて保護者が家庭教育に取り組めるように支援したりと、地域の特色を生かした様々な実践が行われました。

本手引書は、その取組み成果をもとにまとめたもので、子育て中の家庭に関わる自治体職員や様々な支援者の方々にご覧いただけるように作成しています。

地域全体で家庭教育を支え、子どもたちの「未来に向かう力」の育成につながるよう、それぞれの地域の実情に応じた形で取組みを充実させるための参考にいただければ幸いです。

《もくじ》

※もくじの中の次のしるしは、事例を活用できる主な職種等を示しています。

自：自治体職員等
 親：親学習リーダー等
 訪：訪問型の支援員等
幼：幼稚園教諭・保育士等
 健：保健師等
 グ：子育て支援グループ等

1	未来に向かう力とは	4
2	支援するにあたって	6
3	自治体で取り組むにあたって	7
	・様々な部署と連携した取組みの例（泉大津市の例）	8
4	取組みの組み合わせ方の例	
	・講演・講座等と個別の支援を組み合わせ、様々な保護者への取組みを行う例	9
5	講演会等開催までのステップ（例）	
	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 2px;">STEP1</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 2px;">STEP2</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 2px;">STEP3</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 2px;">STEP4</div> </div>	
	・自治体担当者向け 自	10
6	講座（親学習）の企画から実施までの流れ（例）	
	・講座の進行（ファシリテーター）を行う支援者向け 親 グ	12
7	未来に向かう力の育成に向けた保護者支援の具体例	
	（リーフレット『乳幼児期に育みたい！未来に向かう力』の活用事例）	
	●子育て講演会	
	・子どもに寄り添うために 自 幼 グ	14
	・子どもにとっての安全基地となっていますか 自 幼 グ	16
	●親学習	
	・親学習教材『がまんする』を使った親学習 自 親	18
	・親学習教材『自信をもつ』を使った親学習 自 親	20
	・親学習教材『かかわる』を使った親学習 自 親	22
	●子育て講座等と組み合わせた取組み	
	・ベビーマッサージ講座と組み合わせた取組み 自 グ	24
	・公民館講座と組み合わせた取組み 自 グ	25
	・子育てひろばと組み合わせた取組み 自 グ	26

● 幼稚園・保育所・認定こども園での保護者支援



- ・ 幼稚園・保育所・認定こども園での保護者研修会 幼 …… 27
- ・ 幼稚園・保育所・認定こども園での行事と組み合わせた取組み 幼 …… 28
- ・ 幼稚園・保育所・認定こども園の参観日や保護者会等での取組み 幼 …… 30

● 個別相談、家庭訪問による支援

- ・ 個別相談 健 グ …… 32
- ・ 家庭訪問による支援 訪 …… 33
- ・ 産後ケアとしての家庭訪問による支援 健 グ …… 34

● 乳幼児定期健診

- ・ 1歳6か月健診 健 …… 35

● 保護者支援に関わる方への研修会

- ・ 未来に向かう力について学ぶ研修会 自 親 訪 幼 健 グ …… 36
- ・ 親学習教材『自信をもつ』『かかわる』についての研修会 自 親 …… 38
- ・ 親学習教材『がまんする』についての研修会 自 親 …… 40
- ・ 訪問型家庭教育支援員等への研修会 自 訪 健 …… 41
- ・ 幼稚園・保育所・認定こども園の教職員への動画配信による研修
自 幼 …… 42

8 参考資料

- ・ 保護者対象講座等でのアンケート例 …… 43
- ・ 支援者対象研修等でのアンケート例 …… 44
- ・ 保護者への生活アンケート例 …… 45
- ・ 資料ダウンロードについて …… 46
- ・ ICT を活用した研修等の開催方法 …… 47
- ・ 家庭教育支援・子育て支援に関するリンク集 …… 48



1 未来に向かう力とは

未来に向かうかって何？
未来に向かう力はどうして必要？



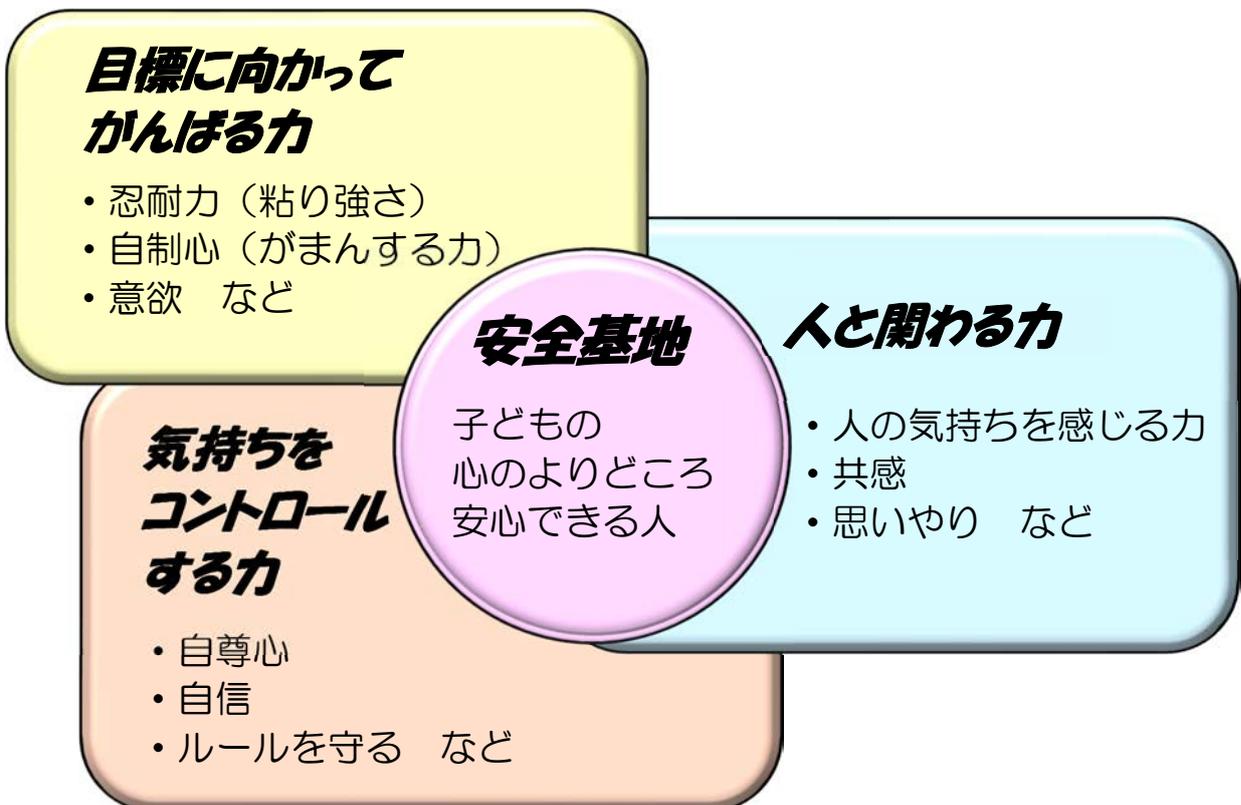
「未来に向かう力」とは、自分やまわりの人たちと、折り合いをつける力のことです。例えば、目標に向かってがんばる力、気持ちをコントロールする力、他の人と関わる力などがあげられます。「非認知能力」や「社会情動的スキル」とも呼ばれます。

最近の研究で、記憶力や推論する力などのIQで測れる「認知能力」だけでなく、この「未来に向かう力」が、子どもの将来にとって大事であることが明らかになっています。

幼児教育や保育の内容などを国が示した、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領にもその内容が組み込まれるなど、乳幼児期から育むことのできる力です。

乳幼児期に「未来に向かう力」が育まれると、それを土台として、小学生のころにはさらに大きく育まれていきます。それによって、難しい問題に挑戦したり、友だちと協力したり、困った時に人を頼ったりする力につながります。また、学習などがわかる力・考える力を育むことにもつながります。

さらに、「未来に向かう力」は、大人になった時に社会を生き抜く力にもつながります。



●安全基地

「未来に向かう力」を育むための土台として、子どもにとっての安全基地を育むことが必要です。安全基地とは、子どもの不安をいつでも受けとめる、安心できる大人のことです。子どもの心のよりどころのことで、物理的な場所としての基地を作るのとは異なります。

子どもが不安な時などに、体や気持ちを受けとめてもらえることで、安心感や信頼感が生まれます。これを繰り返すことで安全基地ができます。

いざという時に頼れるところ（安全基地）があることで、子どもはいろいろなことにチャレンジしようという気持ちになれます。

●目標に向かってがんばる力



- ・ 忍耐力（粘り強さ） ……長い期間、目標に向かって努力を続ける力
- ・ 自制心（がまんする力） ……目標のために、やりたいことや欲求などをがまんする力
- ・ 意欲 ……積極性や興味、難しい課題でもやってみようとする気持ち

●気持ちをコントロールする力



- ・ 自尊心 ……「自分自身は価値ある存在だ」、「自分はこれでいいんだ」と思える気持ち
- ・ 自信 ……自分の能力や価値などを信じること
- ・ ルールを守る ……したい、したくないなどといった自分の気持ちをコントロールし、ルールに合わせて行動をする力

●人と関わる力



- ・ 人の気持ちを感じる力 ……「うれしいのかな」、「怒っているのかな」などと感じる力
- ・ 共感 ……人の気持ちを感じ、その感情が伝わること
相手の立場になって考えること※
- ・ 思いやり ……相手の立場になって考えること（感情面の思いやり）※
人のために自発的に行動すること（行動面の思いやり）

※共感として相手の立場になって考えることと、思いやりとして相手の立場になって考えることがある

2 支援するにあたって

(ア)家庭教育支援のあり方

家庭教育は、すべての教育の出発点であり、子どもが「生きる力」の資質や能力を身につけていく基礎をつくることから、子ども自身が持つ発達する力をサポートするような適切な家庭教育を受けることは、すべての子どもにとって重要です。しかし、子どもを持つ親が、子どもをどう育てていくかということを、初めから知っているわけではなく、発達段階に応じた子どもとの関わり方についての学習が必要です。

親の親としての学びや育ちを応援することが、家庭教育支援の基本です。

親の元気や子どもを育てようという気持ちがまず大切であり、子育てを楽しむことや親自身の人間としての成長を支えていくことが重要です。

支援にあたっては、親が自ら課題解決をしていくことができるような学びの機会が確保されていることが必要です。こうした親の主体性を尊重した学びによって、親が主体的に子育てや社会参画する意欲が高まり、親自身が育ち、親どうしや地域による支え合い、支援された者が今度は支援する者になるなど、支援の循環が生まれていきます。

【資料】『つながりが創る豊かな家庭教育～親子が元気になる家庭教育支援を目指して～』
(平成 24 年 3 月 家庭教育支援の推進に関する検討委員会(文部科学省設置))をもとに作成

(イ)家庭への支援の方法

次の内容は、訪問型家庭教育支援向けに作成されたものですが、家庭への支援にあたって参考としていただけますのでご覧ください。

家庭内での支援の方法

家庭内での支援を行うチーム員の姿勢として最も大切なのは、親や子との信頼関係を築くための話を聴く姿勢(「傾聴」)です。訪問型家庭教育支援の現場では、「指導せず、評価せず、頑張れと言わず、寄り添う」ことなどを大切にしているケースが多く見られます。

そして、地域の家庭教育や子育てに関する情報を保護者に提供することも重要です。

その他、専門家が活用する手法としては、親や子ども・親子関係などの理解や支援のための「観察」、親や子どもとのコミュニケーションを促進するための適切な「質問」、親や子どもの理解や支援を促進するための情報収集＝「調査」、そして、具体的な行動を提案したり、励ましたりする「きっかけの提供」、子どもの教育・しつけなどについて日常会話の中で押しつけにならないように行う「助言・指導」などが使われています。

【資料】『訪問型家庭教育支援の関係者のための手引き』(平成 28 年 3 月 文部科学省)をもとに作成

(ウ)支援にあたって特に気をつけること

家庭への支援では、寄り添う人がいることで保護者は安心感を得られる場合があります。支援者としては、保護者の変化をすぐに求めず(結果を急がず)、「すべて頑張れなくても大丈夫」という気持ちで、傾聴したり寄り添ったりするよう心がけることが求められます。

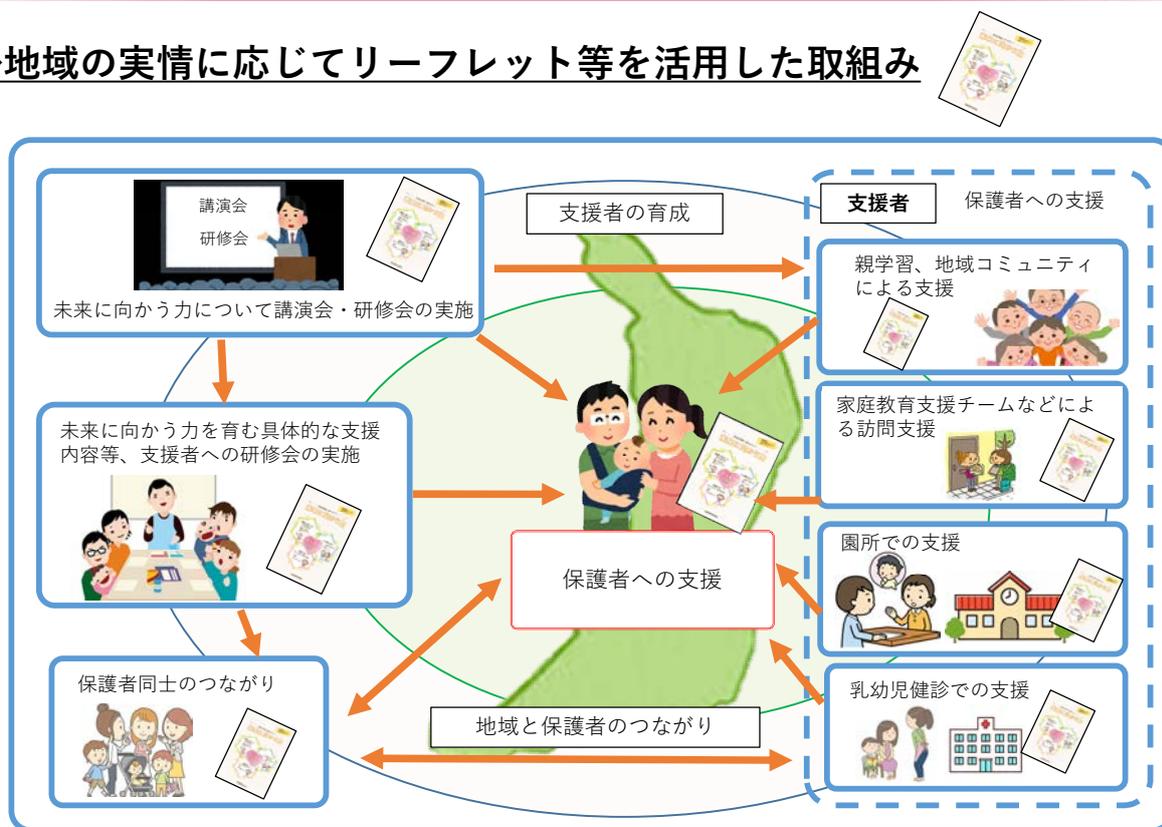
3 自治体で取り組むにあたって

自治体内で、乳幼児期の子どもがいる家庭に関わる部署は、母子保健、子育て支援、家庭教育支援、保育、幼稚園教育など様々あります。それらの部署が連携して、より効果的な支援になるよう取組みを進めることが重要です。

保護者の周りにはいる方々が連携して保護者を支えることで、家庭への支援の効果が高まることが期待されます。

子どもに必要な未来に向かう力などを育み、地域全体で子育て家庭を支えることをめざします

◆地域の实情に応じてリーフレット等を活用した取組み



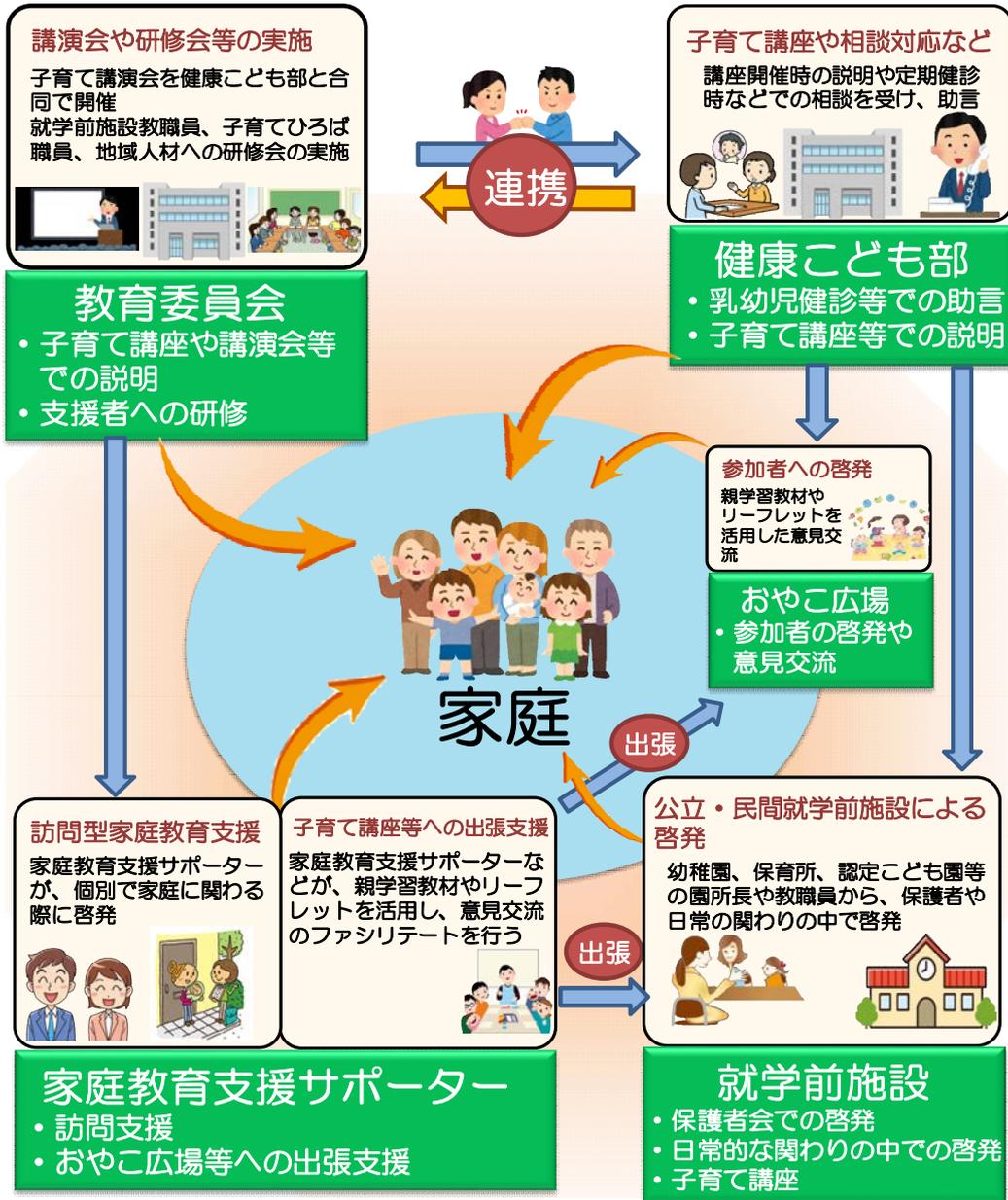
上の図は、子どもに必要な「未来に向かう力」などを育むため、地域の様々な関係者が保護者に関わっている様子を描いています。

「未来に向かう力」を育むという共通の目標を通じて連携を進めながら、地域の方々、幼稚園・保育所・認定こども園などの教職員、保健師など、保護者の周りにはいる方々が保護者を支え、地域全体で子育て家庭を支えることをめざします。

様々な部署と連携した取組みの例

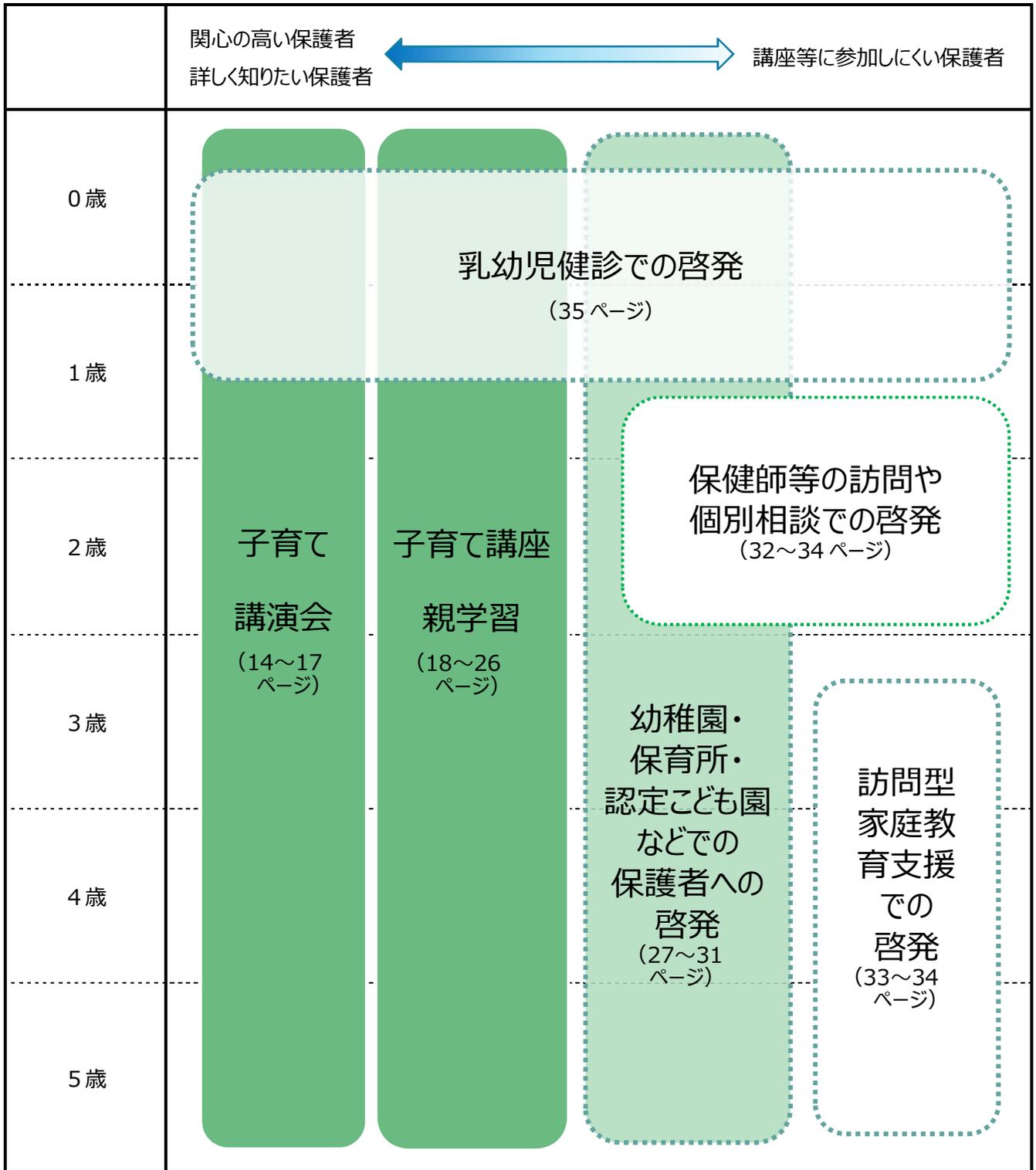
令和3年度 実施体制図

(乳幼児期) 泉大津市における 未来に向かう力の育成に関する家庭への支援



4 取組みの組み合わせ方の例

講演・講座等と個別の支援を組み合わせ、様々な保護者への取組みを行う例



※これらの取組みに加え、未来に向かう力育成に向けた支援者対象の研修会を行う。

(36～42 ページ参照)

5 講演会等開催までのステップ（例）

自治体担当者向け

Step 1

講演会等の企画



Step 2

講演会等の準備



Step 3

講演会等の当日



Step 4

講演会等の終了後



Step 1 講演会等の企画

講演等の趣旨、目的を明確にする

①目的/テーマ/対象者の設定 ②講座形式の検討 ③場所 ④講師 ⑤予算

①目的/テーマ/対象者の設定

- ・開催の目的や参加者に何を学んでほしいのか等を検討し、「未来に向かう力について」、「安全基地について」など、取り上げるテーマを決定する。
- ・「〇歳～△歳児の保護者」など、参加対象者や人数を決める。

②講座形式の検討

- ・目的に合わせて、「情報伝達による講義型」にするのか、「参加体験型」にするのか、またインターネット上で配信するのかなど、実施方法を検討する。

③場所

- ・収容人数、アクセス、設備（座席の形体（固定式、可動式）、音響照明、スクリーンなど）を確認し、決定する。

④講師

- ・講演会等の目的や参加対象者に合った講師を選ぶ。

⑤予算

- ・講師の講演料、講師の交通費、会場費（設営費や附帯設備費含む）、宣伝費（チラシの制作費）等、講座に係る費用が予算額に収まるかを確認する。

Step 2 講演会等の準備

本番に向けての準備

- ①講師との調整
- ②告知
- ③進行表の作成
- ④講演会当日の準備物
- ⑤講演会の記録方法の確認

①講師との調整

- ・日程調整、テーマ（目的）に応じた講演等の内容の相談、当日の進行の調整、交通手段の確認等を行う。

②告知

- ・ポスターやチラシを制作するのか、広報誌に掲載するのか、ホームページに掲載するのかなどを検討し、告知する。

③進行表の作成

- ・開場時間、開演時間、終了時間、司会、講演内容等、受付、講師の送迎対応、スタッフ集合時間、役割分担を決める。

④講演会当日の準備物

- ・控室、演台、マイク、その他、講師が必要とする準備物
（例：スクリーン、ホワイトボード、プロジェクタ、音響など）
配付資料、司会原稿、受付名簿、衛生管理物品（消毒薬）等を準備する。

⑤講演会の記録方法の確認

- ・講演会の様子を記録する方法（写真やビデオ等）を決める。
- ★講師の了承を得て、当日動画のライブ配信や、後日特定の者にだけ URL を周知し、期間を限定して配信するといった工夫をすることもできる。（47 ページ参照）
（参加者の了承も得る）

Step 3 講演会等の当日

- ①会場準備
- ②受付
- ③講演会等の実施・進行、挨拶、説明、運営等
- ④閉会・アンケート回収、退場案内等
- ⑤片付け

Step 4 講演会等の終了後

①支払い

- ・講師への謝金
- ・会場への使用料、附帯設備使用料等

②アンケート集計

- ・参加者アンケートの集計と分析
- ・より良い活動にするための振り返り
- ・活動記録をホームページ等に掲載

自

親

訪

幼

健

グ



6 講座（親学習）の企画から実施までの流れ（例）

講座の進行役（ファシリテーター）を行う支援者向け

Step 1. 企画する

①主催者との打ち合わせ

主催者のねらいを確認するとともに、参加対象者や募集人数、予定会場、保育の有無などについて打ち合わせをする。

②テーマ（目的）の設定

主催者のねらい、参加者の課題意識や子どもの年齢などがわかる場合は確認し、それらをふまえてテーマ（使用する親学習教材等）を決定する。

③準備物の確認

親学習では、教材や筆記用具などが必要になる場合がある。準備物として何が必要かを確認し、それを用意するのは、主催者なのか進行役（ファシリテーター）なのかなども確認する。

④会場設定の確認

会場設定として、参加者に机と椅子を用意するのか、椅子だけにするのかなどを決める。（付箋に書き込むなど、書く場面が多い場合は机が必要だが、会話を重視する場合は、机を置かず、椅子のみを円状に並べてワークをする方法がある。）

Step 2. 講座の流れを考える



①進行表を作成する

導入として、自己紹介で話す内容や、ルール説明で伝えること、アイスブレイキングとして行うミニゲームや、グループワークで話し合う内容などを考え、進行表にまとめる。

②役割分担を決める

複数の進行役（ファシリテーター）で実施する場合は、導入部分や、アイスブレイキングなど、誰がどの部分を進行するのかなど、役割分担を決めて、進行表に書き込む。

③練習する

円滑に親学習ができるよう、話すことなどの練習を行う。

時間	分	内容・留意事項	担当
13:00	5	【自己紹介・親学習説明】 ・あいさつ（季節の話をして、禮を和らげる） ・進行役の自己紹介 ・親学習の説明（参加型であることを伝える） ※参加者はあらかじめ、グループに分かれて集席	○○
13:05	5	【ルール説明】 ・参加、尊重、守秘、結盟 （言いたくないことは「パス」あり。人の意見を尊重。個人的な内容は他では言わないこと。みんなの時間であることを押さえておく）	□□
13:10	5	【アイスブレイキング】 ・後出しジャンケン ※後出しジャンケンをやり方説明（まず、進行役に勝つものをを出す。次に、負けるものを出す。）	△△
13:15	45	【グループワーク】 ・教材を配る ・エピソードを各自で読む（2分） ・役割読み（3分） （みずき・さなえ・祖母・とおるの役を決め、読む） ・エピソードを読んで気になることについて話す。 気になったことや感想などを紹介（1分×4人）	○○ □□ △△ ◇◇ ☆☆
13:20			
13:24		・さなえさんの思いについて、どう感じたかについて話し合う。（10分）	
13:34		【付箋のワーク】 ・どのような「がまん」が成長に大切だと思うかについての意見を付箋に書き、それを台紙に貼りながら伝え合う。（記入：3分、伝え合う：2分×4人）	
13:45		・台紙に貼った付箋を同じような意見同士に仲間分けし、ベンチで読んで見出しをつける。（10分）	
13:55		・他のグループを見学し合って、意見を共有する。（5分）	
14:00	15	【ふりかえり】 ・名刺を書いた紙の裏に、感想をひと言で書く。 ・感想を横に発表する。 ・進行役から、振り返りと最後の挨拶	メイン進行役(各グループの進行役)
14:15			

Step 3. 募集する ※主催者が募集し、進行役は募集に関わらないこともあります。

- ①チラシなど案内資料の作成
- ②チラシの配布やホームページへの掲載など
- ③参加申し込みの受付

Step 4. 準備する ※主催者が準備し、進行役は会場準備等をしないこともあります。

- ①資料等の準備 参加者数などをもとに、当日資料を必要部数準備する。
受付名簿や、会場での案内表示などを準備する。
- ②会場準備 椅子や机などを計画に沿って配置する。
必要に応じて、講座等に使う筆記用具などを準備する。
- ③受付準備 受付用の机や筆記用具、受付名簿などを準備する。



Step 5. 実施する

※事例を参考にしてください。

Step 6. 事後の対応

- ①アンケートなどの集計（主催者が行うこともあります。）
- ②より良い活動にするための振り返り



自

親

訪

幼

健

グ

7 未来に向かう力の育成に向けた保護者支援の具体例

●子育て講演会（子どもに寄り添うために）

取組み		未来に向かう力やそれを育成するための関わり方について伝える講演会
実施場所		ホール
対象者		乳幼児の保護者
講演会の具体的な内容	講師等	・大阪府教育庁職員 ・津村 薫 さん（フェリアン 副所長）
	主な内容	未来に向かう力やリーフレットの紹介 未来に向かう力を育む、子どもの気持ちに寄り添う関わり方について
	リーフレットの 関連するところ	全ページ
	講演会の流れ	大阪府教育庁職員から、リーフレット『乳幼児期に育みたい！未来に向かう力』について説明した後、津村講師から「子どもの気持ちに寄り添うために」をテーマに講演いただき、未来に向かう力（非認知能力）の育成について学んだ。
	講演内容	<p><大阪府教育庁職員より></p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーフレットに示されている、未来に向かう力を育むための子どもとの関わり方について説明。 <p><津村 薫 講師より></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが積極的に人生を送り、主体的に生きようとする力を育む関わり方 ⇒子どもの発達をよく理解して、発達に応じた関わりをすること。 ・自信（基本的信頼）を育むために … 「あなたが大事！」を言葉や肌で伝える。 プラスの言葉がけ ⇔ 良いところ探し よく話を聴く ⇔ NGワードにひっかからない リフレティブリスニング（繰り返して聞いてみる）。 アクティブリスニング（子どもの気持ちを言葉にする（寄り添う））。等 ・自律（自己コントロール）する力を育むために … 自分は大事 でも他者も大事 ⇒ 守るべき集団のルールがある。 ルールを守る力を身に付ける手助けをしてあげる。 大人のコミュニケーション・行動が子どもたちのモデルになる。 子どもの感情（気持ち）を言葉にするが、行動とは区別をする。 ⇒ 「気持ちはわかるけど、してはいけないことはしてはいけない」等 ・意欲（自発性）を育むために … 「自分でやりたい！」を応援する、一方でイライラしない工夫を。



自

親

訪

幼

健

グ

		<p>意欲的な子どもを育むために大事なことは、遊ぶこと。 選択させることも大事、失敗から学ぶことを助ける。等</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども達が未来に向かう力を育む子育てをするために <ul style="list-style-type: none"> …自身のスキルアップとメンテナンスを大切にする。 助けられ上手である、ストレスに強くなる。 生活の中に運動を取り入れる。 等
<p>参加者募集にあたっての工夫</p>		<ul style="list-style-type: none"> より多くの保護者に知ってもらうよう、市内幼稚園、保育所の保護者に対してチラシを配布し、直近の市広報誌においても開催を周知した。 育児中の親も参加しやすいように保育付きとし乳幼児の同伴を可能とした。 新型コロナウイルス感染症予防の為、定員を設けて広めの会場で密を避け、手指消毒やマスク着用、受付でのアクリル板の設置、入場前の検温、受付票による参加者受付等を行った。
<p>参加者の感想</p>		<ul style="list-style-type: none"> 「子どもへの接し方や、話し方等、具体的なお話で、とてもわかり易かった」 「体操なども取り入れていただき、楽しかった」 「心も体も軽くなったような良い学びができた」 「言葉がけのコツがわかった」 「産前などもっと早い時期に聞いておきたかったが、これからの育児に活かしたい」 「子育てはもう無理、嫌だと思っていたが、もう一度やってみようと思った」

自

親

訪

幼

健

グ



子育て講演会（子どもにとっての安全基地となっていますか）

取組み		未来に向かう力について、その土台となる安全基地の育成について伝える講演会
実施場所		研修室
対象者		乳幼児の保護者
講演会の具体的な内容	講師等	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪府教育庁職員 ・北川 恵 さん（甲南大学 教授）
	主な内容	未来に向かう力やリーフレットの紹介 未来に向かう力を育む土台となる、子どもの安全基地について （安全基地とは何か、その必要性、育むための関わり方 等）
	リーフレットの 関連するところ	2～4ページ
	講演会の流れ	大阪府教育庁職員から、リーフレット『乳幼児期に育みたい！未来に向かう力』について説明した後、北川講師から「子どもにとっての安全基地となっていますか」をテーマに講演いただき、未来に向かう力（非認知能力）を育む土台となる、安全基地（安心基地）について学んだ。
	講演内容	<p><大阪府教育庁職員より></p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーフレットに示されている、未来に向かう力を育むための子どもとの関わり方について説明。 <p><北川 恵 講師より></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アタッチメント（愛着）とは？ <ul style="list-style-type: none"> …不安な時に、くっついて、安心したい本能。愛着と愛情は別なもの。 子どもは、安全で安心だと思えることで「探索※」ができる。 ※十分な安心感がある時に、好奇心を発揮したり、いろいろなことを自分でやってみたがったりする、環境に働きかける本能 （例）魅力的な遊びがあっても、安心感が無いと遊べない。安全で安心だと思えることで、遊ぼうと思える。 ・アタッチメントの問題と養育者の関わり（アタッチメントの個人差） <ul style="list-style-type: none"> …不安な時は、養育者にくっつきたい！（本能的欲求） ⇒どうすれば養育者の側にいられるかを学習する（防衛方略）。 <ul style="list-style-type: none"> 不安な時、泣きながら親に訴えると、拒絶される場合 <ul style="list-style-type: none"> →回避型アタッチメント（最小化方略） = 不安だという信号をあまり出さなくなる。 不安な時、親の応答を信じきれない場合 <ul style="list-style-type: none"> →アンビバレント型アタッチメント（最大化方略） = 不安だという信号をたくさん出す。なかなか安心できない。 ★ストレス場面での行動パターンに、アタッチメントの個人差が現れる。



自

親

訪

幼

健

グ

		<ul style="list-style-type: none"> ・健全なアタッチメント形成に必要な養育者の関わり <ul style="list-style-type: none"> …子どもの欲求や気持ちがわかること。それに応えられること。 ・子どもの安全基地（安心基地）になるために <ul style="list-style-type: none"> …子どもは「安心」しているか「不安」か？ ⇒「安心」していそうなら…… <ul style="list-style-type: none"> 探索を応援しよう！（子どもは何に興味があるのかな？） ⇒「不安」そうなら…… <ul style="list-style-type: none"> 安心感を与えよう！（どうしたのかな？何が不安なのかな？） → この姿勢が子どもの安全基地（安心基地）になる。 ・安心感が無いと始まらない <ul style="list-style-type: none"> …ジェットコースターに乗れるのは、安心感があるから。 初めて見た食べ物を、食べようと思えるのは、安心感があるから。 <p>安全と安心</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要な時には毅然とした対応をする。子どもの気持ちを受けとめる。 ・親にも「安心感」が必要 <ul style="list-style-type: none"> …子どもの行動の意味が分かる。 （どうして～何だろう → きっとこういう気持ちなのかな） …子どもの気持ちに寄り添う余裕がある。 （ついつい繰り返すいつもの関わり → 一息ついて、いつもと違う関わり） ・特に、現代の日本においては、養育者が支え合いながら子育てできること（孤立しないこと）が大切。
	<p>参加者募集にあたっての工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの人に知ってもらうよう、市内幼稚園、保育所の保護者に対してチラシを配布し、直近の市広報誌においても開催を周知した。 ・1歳以上の子どもがいる保護者も参加しやすいよう保育付きとした。
<p>参加者の感想</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの気持ちに寄り添った言葉がけをしていきたいと思いました」 ・「気構えずに、子どもとの会話を楽しみながら、子どもの欲求を見極めていこうと思います」 ・「安全基地の意味が分からない中で参加しましたが、北川先生のお話を聞いて、腑に落ちました。とても大切な学びでした。ありがとうございました」 ・「全てを前向きに、プラスに捉えて、対応できるということに感動を覚えました。自分の頭の柔らかさも必要だと感じました。そこを楽しめるくらいの余裕を持ちたいです」 ・「先生のお話がスッと入ってきました。安全と安心、必要な時は毅然とした対応と気持ちを受けとめる。このバランスを大切にしながら、子育てに生かしていきたいと思いました」 ・「愛着と愛情の違いがわかりました」



●親学習

親学習教材『がまんする』を使った親学習

『がまんする』のダウンロードはこちら→

取組み		自制心（がまんする力）を育むことについて考える親学習
実施場所		生涯学習・地域コミュニティ施設
対象者		おもに乳幼児の保護者
実施にあたっての取組み例	講師等	親学習リーダー（ファシリテーターとして）
	主な内容	親学習教材『がまんする』とリーフレットとを使い、参加型のワークショップを行う 子どもの成長に必要ながまんについて、教材や参加者の経験を通じて考える
	リーフレットの 関連するところ	6～8ページ
	講座の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ●導入 <ul style="list-style-type: none"> ・親学習リーダーの自己紹介。 ・親学習のルール「参加」「尊重」「守秘」「時間」の説明。 ・アイスブレイキング「グーパー体操」（最初は右手を前に突き出してパー、左手を胸の前でグーをつくり、ファシリテーターの「ハイ」で右手と左手を入れ替え、だんだんとスピードアップしていくゲーム）。 ・4～6人のグループをつくる。それぞれのグループに、親学習リーダーがファシリテーターとして入る。 ●グループワーク1 <ul style="list-style-type: none"> ・教材のエピソードを読む。 ・「エピソードで気になるところはどこでしょうか？」 親学習リーダーが質問し、グループ内で参加者の2人組をつくってから、その2人組でエピソードを読んで気づいたことや感想などを紹介し合う。 ●グループワーク2 <ul style="list-style-type: none"> ・「さなえさんの思いについて、どう感じましたか？」 ショッピングセンターでの場面や、子育てがだんだん難しくなると感じている場面など、さなえさんが悩んだり、迷ったりしているところについて、グループで意見を出し合う。 ●グループワーク3 <ul style="list-style-type: none"> ・「どのような『がまん』が、成長に大切だと思いますか？」 子どもにがまんして欲しいことや、がまんしてほしくないことも含めて、グループで意見を出し合う。 ●リーフレット『乳幼児期に育みたい！未来に向かう力』の紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・リーフレット6ページ下段を読んで、2種類のがまんについて紹介する。



自

親

訪

幼

健

グ

		<ul style="list-style-type: none"> ・リーフレット7～8ページを紹介しながら、「がまんする」といっても、いろいろな面からとらえることができるので、単に「したいことをさせない」だけにとどまらず、何が必要なのかなどを考えることを伝えた。 ●ふりかえり ・この親学習の感想について、参加者が順に話す。
	<p>参加者募集にあたっての工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・親学習の名称を“ママパパほっこり おしゃべりサロン”にして実施した（他の場で行う親学習も、この名称を使用）。 ・市が実施している他の子育て講座の講師とコラボレーションすることで、参加者が感じるハードル（新たな講座や、知らない人が集まる場に参加しにくいという思い）を低くした。 ・保育ボランティアを依頼し、乳幼児連れの保護者も参加しやすくした。
<p>参加者の感想</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・「新型コロナウイルスにより、普段はママ友と話すこと自体がはばかられていたこともあったため、こうやって話すことがすごく新鮮でうれしかった」 ・「他の人の発言を聞いて、そんな考え方もあるんだなと思って、とてもよかった」 ・「『思ったことをすべて言うのではなくて、6～7割にとどめて話している』ことを思い出した。少し違うかもしれないが、ここにも『がまんする』の要素は含まれているのかもしれない」 ・「子どものがまんのさせ方、ほめ方を考えられた」 ・「それぞれの家の約束事などを聞くことができました。見習いたいことがあった」 ・「子どもに次々と指示してしまっている。親が管理しすぎて、子どもががまんしすぎているのかもしれないと思った」 ・「子どものがまんについて話しているうちに、自分自身のがまんがたまっていることにも気づいた。ストレスをためないように、気持ちのぬきどころがあったらいいなと思った」

自

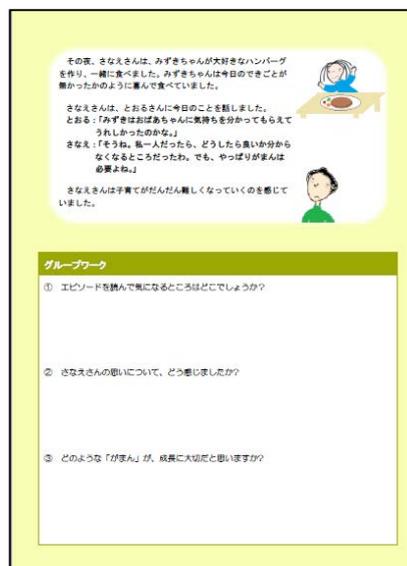
親

訪

幼

健

グ





親学習教材『自信をもつ』を使った親学習

『自信をもつ』のダウンロードはこちら→

自
親
訪
幼
健
グ

取組み	自信を育むことについて考える親学習	
実施場所	公民館	
対象者	妊婦、乳幼児の保護者	
実施にあたっての取組み例	講師等	親学習リーダー（ファシリテーターとして）
	主な内容	親学習教材『自信をもつ』とリーフレットを使い、参加型のワークショップを行う遊びの中で育まれる力や、子どもが自信をもつために必要なことについて、教材や参加者の経験を通じて考える
	リーフレットの関連するところ	4～8ページ
	講座の流れ  	<ul style="list-style-type: none"> ● 導入 <ul style="list-style-type: none"> ・親学習リーダーの自己紹介。 ・親学習のルール「参加」「尊重」「守秘」「時間」の説明。 ・アイスブレイキング「バースデーチェーン」（ジェスチャーで誕生日を伝えながら、誕生日順に並ぶゲーム）。 ・4～6人のグループをつくる。それぞれのグループに、親学習リーダーがファシリテーターとして入る。 ● グループワーク1 <ul style="list-style-type: none"> ・「小さいころ、どのような遊びをしていましたか？」 参加者自身がしていた、小さい頃の遊びについて、まずはペアで紹介し合い、その後グループで共有する。 ● グループワーク2 <ul style="list-style-type: none"> ・「昔遊びからどんな力がつく？」 昔遊びから、どのような力が身につくと考えられるかグループで意見を出し合う。（参加者の意見の例） 「自然の中での遊びで体力がつく」 「友達と遊んでいると協調性が育まれる」 ● グループワーク3 <ul style="list-style-type: none"> ・教材のエピソードを読み、子どもが自信を持つようになるために、どのような手立てをしているかグループで意見を出し合う。 ● リーフレット『乳幼児期に育みたい！未来に向かう力』の紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・リーフレット4ページを読んで、楽しくしている時はそっと見守り、困った時は子どもの思いを聞いて、受けとめることについて確認する。

		●ふりかえり ・この親学習の感想について、参加者が順に話す。
	参加者募集にあたっての工夫	・連続講座の一つとして実施したため、子育てや家庭教育についての様々な学びの一つとして、参加してもらえた。 ・乳幼児連れの保護者も参加しやすくするため、保育付きとして実施した。
	参加者の感想	・「ほめることに苦手意識があったが、子どもをほめるように努力しよう」 ・「どこの家庭でも、みんな悩んでいることは同じだと思った。それだけで、安心した」 ・「ほめて育てることが大事だと思った。焦らないでやっていきたい」 ・「本人が、自信を持てるほんのちよつとの手立ての難しさを感じるが、できることからやっていきたい」 ・「子ども自身が意思を持って行動していることに気付かされた。子どもの意思を受け止めるように努めたい」 ・「子どものしたいことに、チャレンジさせることも大事。でも、そのためには親の忍耐力が必要だな。できることからやってみよう」

自

親

訪

幼

健

グ

大阪府

「自信をもつ」

【文】 吉本なほ・【脚】 吉つたえり 20

■エピソード
さちこさんはお母のはるかちゃんとは異なり、夫のひろしさんの4人暮らし、はるかちゃんは近所の幼稚園に通っています。
今回は幼稚園で子どもたちがおにぎり作り体験をするイベントがあります。みんなで作って食べるおにぎり、おもしろいですが、子どもたちは満足そうに食べています。
子どもたちは「わたしの、大きいよ!」「僕のも見てよ! 僕も」と得意げな様子です。先生たちも「すべておにぎり作りだね!」「おいしいそうだね!」と子どもたちのおにぎり一つひとつを褒めながら、声かけをしています。

さちこさんがお母のしたくをしているときも、はるかちゃんはさちこさんに一言懸命、おにぎり作りの様子を見ている。
さちこ「すごいね! はるか、一人でできたのね。おうちでも作ってみたいかな」
はるか「いいよ!」作ってあげるよ」

そのとき、ひろしさんがおにぎり作りに準備ができました。ひろし「たのしいな〜」
さちこ「あらっ、今日は僕もいね」
ゆずるくんが得意げな様子で、さちこさんはゆずるくんを褒めながら作ります。
はるかちゃんはおひろしさんに幼稚園でできたおにぎりを見せてあげました。
はるか「はるか、今日は幼稚園で、一人でおにぎり作ったんだよ!」
ひろし「へえ〜、それはうれしいなよ。」

その家、ひろしさんとさちこさんは、はるかちゃんの話をしています。
ひろし「はるかちゃんも自分で、にぎってくれたぞ」
さちこ「一人でおにぎりをにぎったのが、かなりうれしかったみたいよ」
ひろし「僕は子どものおにぎりにおにぎりになるとは思ったことなかったけど、やればできるものなんだね。」

さちこさんのひとりごと
うれしい反面、この次は自分で作りたいとか言い出すんじゃないかな……。
お母の子どもいるし、まねをしたら僕も……。でも、やってみよう。

グループワーク

① 食事づくりや家の手伝いなどで、子どもが何かしていることはありますか?

② さちこさんのひとりごとについて、どう思いますか?

③ 子どもから「○○がしたい」と言われたとき、どのようにしていますか?

④ 子どもが自信を持つようになるには、どうしたらよいでしょうか? アイデアや工夫などを、話しあってみましょう。



親学習教材『かかわる』を使った親学習

『かかわる』のダウンロードはこちら→

自
親
訪
幼
健
グ

取組み		人と関わる力を育むことについて考える親学習
実施場所		保健福祉センター
対象者		乳幼児の保護者
実施にあたっての取組み例	講師等	親学習リーダー（ファシリテーターとして）
	主な内容	親学習教材『かかわる』とリーフレットとを使い、参加型のワークショップを行う 人と関わる力を育むために必要なことについて、教材や参加者の経験を通じて考える
	リーフレットの 関連するところ	8 ページ 中段「きまりの必要性を考えるよう、うながす」 下段「けんかした時は、話（思い）を聞き、大切なことを伝える」
	講座の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ● 導入 <ul style="list-style-type: none"> ・親学習リーダーの自己紹介。 ・親学習のルール「参加」「尊重」「守秘」「時間」の説明。 ・アイスブレイキング「Yes、No ゲーム」（会場を2分割し、Yesの場所・Noの場所とする。お題（質問）を出し、YesとNoに分かれてもらう）。 ・4～6人のグループをつくる。それぞれのグループに、親学習リーダーがファシリテーターとして入る。 ● グループワーク1 <ul style="list-style-type: none"> ・教材のエピソードを読む。 ・「エピソードを読んで、どのように感じましたか？」 親学習リーダーが質問し、グループ内で参加者の2人組をつくってから、その2人組で、エピソードを読んで気づいたことや気になったことなどを紹介し合う。 ● グループワーク2 <ul style="list-style-type: none"> ・「さやかちゃんやすぐるくんの気持ちを考えましょう」 次のような点について、さやかちゃんやすぐるくんの気持ちを考えて、グループで話し合う。 ① さやかちゃんは、「いいよ」というセリフを何度か言っているが、実際はどのように思っているのか。 ② すぐるくんは、ブロックの所に近づいてきたのに、しばらく見たままで、突然ブロックをつかんでいたが、どのように思っているのか。 ● グループワーク3 <ul style="list-style-type: none"> ・「ちずるさんやスタッフの声かけについて、どう思いますか？」 ちずるさんやスタッフの声かけについて考えて、どう思うかをグループで話し合う。



	<p>●グループワーク4</p> <p>・「子どもの『かかわる力』を育てるには、何が大切でしょう？」</p> <p>子どもの「かかわる力」を育てるには、何が大切かについて、アイデアや工夫などを、グループで話し合う。参加者が実際にしていることや、していなくても、こんなふうにした方がいいと思っていることなどについての意見を出し合う。</p> <p>(参加者の意見の例)</p> <p>「大人が先回りしてお願いしたり、謝るようにさすよりも、自分からできるかどうか、しばらく見守ったほうがいい」</p> <p>「状況を見ている親は、どんな気持ちなのだろうか」</p> <p>●リーフレット『乳幼児期に育みたい！未来に向かう力』の紹介</p> <p>・リーフレット 8 ページ中段「きまりの必要性を考えるよう、うながす」を読んで、出した意見について振り返る。</p> <p>・子どもがけんかをした時の大人のかかわり方の例の紹介として、リーフレット 8 ページ下段「けんかした時は、話（思い）を聞き、大切なことを伝える」を読む。</p> <p>●ふりかえり</p> <p>・この親学習の感想について、参加者が順に話す。</p>
<p>参加者募集にあたっての工夫</p>	<p>広報での周知に加えて、定期健診の会場や、幼稚園・保育所・認定こども園にチラシを置いて周知した。</p>
<p>参加者の感想</p>	<p>・「今まで考えたことが無かったような気づきがたくさんできた」</p> <p>・「子どもと関わることについて、話をしたり聞いたりして共感できることがたくさんあった」</p> <p>・「自分自身、コミュニケーションが苦手で、思っていることをうまく話せなかったけれど、グループワークではみんなに話を聞いてもらえてうれしかった」</p> <p>・「自分の子どもより少し大きい子の保護者の話を聞くことができたので、遊び方や友だちとの関わり方など、これからの子どもの成長の様子をイメージすることができた」</p> <p>・「子どもは、自分より少し大きい子の様子を見て、あこがれ、まねをする。いろいろな子と関わる場面を増やしたい」</p> <p>・「家での子どもとの関わり方と、子どもの友達との関わり方を見直そうと思った」</p> <p>・「コミュニケーションを取るために、まずは、あいさつが大事だと思った」</p>



●子育て講座等と組み合わせた取組み

ベビーマッサージ講座と組み合わせた取組み

取組み		ベビーマッサージと組み合わせて行う、安全基地や未来に向かう力についての啓発
実施場所		公民館
対象者		2 か月～6 か月児の保護者
実施にあたっての取組み例	講師等	助産師、自治体職員
	主な内容	未来に向かう力やリーフレットの紹介 安全基地を育む関わり方についてベビーマッサージ実習を通して伝える
	リーフレットの関連するところ	1 ページ「未来に向かうかって何?」「未来に向かう力どうして必要?」 2～4 ページの安全基地に関すること 3 ページ最下部のひと言「日常の関わりが、子どもの力につながっています」
	説明内容	 <ul style="list-style-type: none"> ・助産師からは、安全基地を育むことについて、赤ちゃんの動きに反応することや話しかけることなどが大切ということ、ベビーマッサージの実習の中で伝える。 ・自治体職員からは、リーフレット 3 ページ最下部のひと言（「日常の関わりが、子どもの力につながっています」など）の紹介や、未来に向かう力についての簡単な説明などとともに、少し時間がある時などに家庭でリーフレットを見ていただくよう伝える。
	説明にあたっての工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・広く家庭教育の重要性を知っていただくために、未就学児の保護者が参加するベビーマッサージの機会を活用し、参加者（未就学児の保護者）にリーフレットの配付と、説明を行った。 ・参加者にはマッサージをすることが、安全基地を育むことにつながっていることを知ってもらうため、ベビーマッサージの実習中に安全基地のことについて伝えた。 ・安全基地や未来に向かう力を育むことは、赤ちゃんの時期だけでなく、乳幼児期から小中学校期以降の子どもの学びや育ちにも影響する大切なことであることを伝えた。
主催者の感想		<ul style="list-style-type: none"> ・ベビーマッサージで、保護者と赤ちゃんが互いに肌をふれあうことで、安心感を得、それが赤ちゃんの「安全基地」の育みにもつながっていると感じられた。 ・ベビーマッサージで習得した体験から、改めてリーフレットを読み返していただくことで、保護者の学びがより深まるだろうと思われる。

自

親

訪

幼

健

グ

公民館講座と組み合わせた取組み

取組み		公民館講座（子育て家庭向けクラフト教室）と組み合わせて行う、未来に向かう力についての啓発
実施場所		公民館
対象者		乳幼児の保護者
実施にあたっての取組み例	講師等	自治体職員
	主な内容	未来に向かう力が大切であることの説明や、リーフレットの紹介をする
	リーフレットの関連するところ	全てのページ
	説明内容 	<ul style="list-style-type: none"> ・未来に向かう力（非認知能力）が子どもたちの学びや育ちに重要であること。その力の育みには乳幼児期における大人の関わりかたが大切であること。 ・リーフレットには、子どもの成長段階に応じて大切なことが載っているので、是非ご確認いただき、日頃の育児に活用していただきたいこと。 ・大阪府教育委員会の HP でもリーフレットが検索できるので、友人にも広めていただきたいこと。
説明にあたっての工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・広く家庭教育の重要性を知っていただくために、未就学児の保護者が参加する講座・行事でリーフレットを配付して啓発を行うことも有効であると考え、この機会を活用した。 (その他の工夫) ・参加されたご家族が作られたクラフト作品を互いに紹介することや、それぞれの作品に感想を出し合うなど、相互に支え合える場の大切さや意義がその場でも感じ取れるような仕掛けをつくる工夫もある。 	
保護者の様子		<ul style="list-style-type: none"> ・説明は聞いていただいている様子だったが、子どもと一緒に参加だったので、説明中も、子どもに意識が向いているようだった。 ・子どもが傍にいる時にリーフレットの説明をすることで、リーフレットの記載内容と子どもの様子を比べるなどしながら見ているようで、子どもと関連付けて考えていただけているようである。

自

親

訪

幼

健

グ

子育てひろばと組み合わせた取組み

取組み		子育てひろばに参加した保護者への啓発や相談
実施場所		子育てひろば会場
対象者		子育てひろばに参加した保護者
実施にあたっての取組み例	講師等	自治体職員、家庭教育支援員
	主な内容	未来に向かう力や安全基地が大切であることの説明や、リーフレットの紹介をする それを踏まえた、子育てについての個別相談
	リーフレットの 関連するところ	2～6ページ
	説明内容	 <ul style="list-style-type: none"> ・未来に向かう力（非認知能力）は人と関わっていく中でとても大切な力であり、乳幼児期からの働きかけでその力の育成が促されること。 ・安全基地は大人の誰もがなりうるが、子どもたちと一番多く接する保護者に一番意識してほしいということ。 ・赤ちゃんは泣くことでさまざまなことを表現する。泣いている時、抱っこしながら「暑かったかな」「お腹すいたね」「おしっこで気持ち悪かったかな」など赤ちゃんへの声かけをしていくことが安心感と自己肯定感につながること。 ・赤ちゃんが歩いてこけたとしても、泣かずに起き上がろうとする時は、見守ってあげてほしいこと。
	説明にあたっての工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てひろばの時間中に 30 分間、参加している保護者に対し、未来に向かう力の大切さについて知っていただく時間をとった。まず、自治体職員からリーフレット『乳幼児期に育みたい！未来に向かう力』の内容について、10 分説明をし、残りの 20 分は、自治体職員や家庭教育支援員が各家庭での子育て・教育について保護者と 1 対 1 で話す個別相談の時間とした。 （その他の工夫） ・保護者どうしの新たなつながりをつくるため、バースデーチェーン（ジェスチャーで誕生日を伝えながら誕生日順に並ぶゲーム）で保護者の並び方を変えて、となりの参加者と一緒に話をするという工夫もある。
保護者の様子		<ul style="list-style-type: none"> ・子育てひろばでは集中して話を聞くことはできないが、1 対 1 の時間をとることで、保護者はいろいろ悩み等を話していた。 ・話をすることで、保護者自身がリラックスできている様子である。

自

親

訪

幼

健

グ

●幼稚園・保育所・認定こども園での保護者支援



幼稚園・保育所・認定こども園での保護者研修会

取組み		幼稚園・保育所・認定こども園での、未来に向かう力やリーフレットについての保護者研修会
実施場所		幼稚園・保育所・認定こども園
対象者		幼稚園・保育所・認定こども園児の保護者
実施にあたっての取組み例	講師等	教育委員会事務局指導主事、園所長等
	主な内容	未来に向かう力や安全基地が大切であることについてそれを育むための関わり方についてリーフレットを紹介しながら伝える
	リーフレットの関連するところ	全てのページ
	説明内容	<ul style="list-style-type: none"> ・未来に向かう力（非認知能力）は人と関わっていく中でとても大切な力であり乳幼児期からの働きかけでその力の育成が促されること。 ・安全基地は大人の誰もがなりうるが、子どもたちと一番多く接する保護者に一番意識してほしいこと。 ・子どもががんばろうとしている時はそっと見守り、助けが必要な時には抱きしめながら声かけをしてあげてほしいこと。 ・未来に向かう力の大切さについて話をしたあとで、子どもに対しては、親自身が子どもの前で見本をみせたあと、子どもにさせて、ほめてあげるというプロセスを大切にしてほしいこと。
	説明にあたっての工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・P T A 実行委員会の会合後の 30 分間、「子育て講演」と題して、保護者に対して、リーフレットの内容についての話をを行った。（その他の工夫） ・未来に向かう力について記した絵カードなどを活用する。 ・リーフレット全ページの説明ではなく、必要な箇所に分けて説明する工夫もある。
保護者の様子		<ul style="list-style-type: none"> ・「わかってはいるが、なかなか毎日ではできない」との本音を話していた。 ・子育てに対して意識が高い保護者が多いと思われ、話の内容についても納得しながら聞いてもらった印象がある。

自

親

訪

幼

健

グ

幼稚園・保育所・認定こども園での行事と組み合わせた取組み

取組み	幼稚園・保育所・認定こども園での行事（運動会、親子遠足、観劇会）の機会を活用した啓発	
実施場所	幼稚園・保育所・認定こども園	
対象者	幼稚園・保育所・認定こども園児の保護者	
実施にあたっての取組み例	講師等	幼稚園・保育所・認定こども園の職員
	主な内容	目標に向かってがんばる力や、遊びの中で育まれる力、人と関わる力など、行事での場面に応じた未来に向かう力の育成について
	リーフレットの関連するところ	<ul style="list-style-type: none"> ■運動会（7～8ページ） ■親子遠足（1～4、7～9ページ） ■観劇会（1, 9ページ）
	説明内容	<p>●保護者が集まる機会での、未来に向かう力についての紹介</p> <p>「小学校入学に向けて、授業について行けるのか、友だちとうまく関われるのかなど、様々な不安や心配があると思うが、今大切にしなければならない子どもへの関わり方や身に付けさせたい力として、未来に向かう力がある。未来に向かう力を育み、目標に向かってがんばる力・気持ちをコントロールする力・人と関わる力を身に付けることによって、小学校入学後に、難しい問題に挑戦したり、友だちと協力したり、困ったときに人に頼ったりすることができるようになる」という事を伝えた。</p> <p>■運動会</p> <p>「子どもが真剣な表情で運動会に取り組んでいるのは、「今まで練習してきた事を、おうちの人に見てもらいたい」という子どもの思い（心の中の「目標」）が、それまでがんばってきた過程とともに現れる瞬間である」ということを保護者に伝え、運動会の中での子どもの表情をよく見て、「目標に向かってがんばる力」などの未来に向かう力が現れている瞬間を捉えられるように発信した。</p> <p>■親子遠足</p> <p>普段子どもが使っている遊具（ボール、フラフープ、縄、リレー遊びの用具 等）を準備し、親子で遊ぶプログラムをした。遊びの中で育まれる未来に向かう力や、子どもの成長といった、園だよりやクラスだよりで発信していることを、親子で一緒に遊ぶ中で実感してもらい、子どもと関わる喜びを感じてもらおう機会にして欲しいと伝えた。</p> <p>「思い切り子どもと遊ぶ1日にすること」、「保護者も楽しむこと」、「子どもが遊ぶ中で、夢中になっていたり、気持ちを切り替えようとしていたり、最後までやってみようとするなどの様々な姿を見てほしいこと」、「友だちやまわりの人と関わる様子を見てほしいこと」などを伝えた。</p>



自

親

訪

幼

健

グ

	<p>■観劇会 人と関わる力を育むために、思いを伝え合うことの大切さを伝えた。リーフレット 9 ページ上段「思いを伝え合う」のところを紹介し、「人形劇を親子で見ること、親子が同じものを見て心を動かされたこの機会を大切に、それを見て感じたことなどを親子で聞いたり伝えたりして欲しい」ということを伝えた。</p>
<p>説明にあたっての工夫</p>	<p>行事等、保護者に伝えられる機会を活用して説明した。</p> <p>■運動会 運動会で子どもががんばっている場面や悔しがっている場面、生き生きしている場面等、リアルタイムの場面を活用した。</p> <p>■親子遠足 遠足という体験活動の機会を捉え、子どもの未来に向かう力の育みを感じてもらうようにした。</p> <p>■観劇会 思いを伝え合う大切さについて伝え、行動につなげてもらえるよう、親子で同じものを見て心を動かされた機会を活用した。</p>
<p>保護者の様子</p>  <p>今日の人形劇を見て、どう感じた？</p>  <p>私は…と思ったよ！ すごく楽しかった！</p>	<p>●保護者が集まる機会での、未来に向かう力についての紹介 「何歳になっても子どもたちの安全基地でいられるよう、子どもによりそいながら見守りたい」、「乳幼児期の子どもとの関わり方が、思春期の子どもの様子につながることを改めて実感した」などの感想があった。</p> <p>■運動会 子どもたちが運動会に取り組んでいる中で、未来に向かう力が現れる瞬間・子どもががんばりを見ようとする保護者の姿が多かった。また、その時の子どもの様子や、保護者が感じたことなどを、あとで家庭の中で共有したとの感想が多かった。</p> <p>■親子遠足 広い芝生で、親子が遊ぶ中で、リラックスしてゆっくり関わる様子が見られた。また、保護者同士がつながって互いに声を掛け合ったり、話をしたりして交流する姿が見られた。そして、保護者みんなで子どもを見たり、関わったりすることで、子どもの安全基地があちらこちらに見られ、子どもがのびのび遊ぶ姿につながっていた。</p> <p>■観劇会 家に帰ってから、人形劇を見て思ったこと・感じたことなどを伝え合ったという意見が多かった。</p>

幼稚園・保育所・認定こども園の参観日や保護者会等での取組み

取組み		幼稚園・保育所・認定こども園での参観日や保護者会を活用した啓発
実施場所		幼稚園・保育所・認定こども園
対象者		幼稚園・保育所・認定こども園児の保護者
実施にあたっての取組み例	講師等	幼稚園・保育所・認定こども園の職員
	主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ■安全基地（信頼関係）を育むこと、子ども同士の関わりについて ■遊びの中で育まれている未来に向かう力について ■人と関わる中で育まれる力（協同性や思いやり）について
	リーフレットの関連するところ	全てのページ
	説明内容	<p>■安全基地（信頼関係）を育むこと、子ども同士の関わりについて （6月頃、保護者会にて、動画も使って伝えた）</p> <p>「園での生活の中で、子どもが自分らしく力を発揮していくためには、園の職員（教員・保育士等）と子どもとの信頼関係が大切である。親以外の大人との信頼関係を構築する力は、保護者からの見守りなどの「心の安定」が基盤になっていることを伝えた。また、「園という社会の中で、子ども同士で関わり合ったり、刺激し合ったりする中で学び合っている」という事を、動画で園での子どもたちの様子を見てもらいながら伝えた。</p> <p>■遊びの中で育まれる未来に向かう力について （7月頃、参観の後、ドキュメンテーション※ を使って伝えた）</p> <p>「職員が安全基地になるように取り組んできたこと」、「安心できる場や人があることで、友だち（他者）との関係づくりにつながっていること」、「子どもたち同士の関わりの中で、子どもが満足できる場面や、友だちとのいざこざなどがありながら成長していること」、「子どもたちの様子に合わせた環境づくり」、「就学前に育んだ力が、小学校以降の学びにつながっていること」、「家庭の役割」などについて伝えた。</p> <p>■人と関わる力（協同性や思いやり）について （11月頃、保護者交流会にて、動画も使って伝えた）</p> <p>友だちと一緒に活動する中で育ちつつある「協同性」や「思いやり」が見られた場面を動画にして伝えた。</p> <p>子どもたちがあきらめずに、根気強くがんばる姿や、友だちを応援したり協力したり支え合ったりする姿など、子ども一人の力だけでは体験できないことを学び取っていた場面などを、保護者と共有した。</p> <p>動画により、実際の子ども姿を捉えながら、子どもの内面や成長面を伝えていくことで、大事にしたい子ども姿を共有することができた。</p>



自

親

訪

幼

健

グ

説明にあたっての工夫	<ul style="list-style-type: none"> ■安全基地（信頼関係）を育むこと、子ども同士の関わりについて 保護者同士で交流・雑談できる時間の後、啓発の時間をつくった。交流の時間を作ることで、保護者のリフレッシュの機会になるようにした。 動画により、実際の子どもたちの姿を見ながら伝えることで、理解していただけるようにした。 ■遊びの中で育まれる未来に向かう力について ドキュメンテーションを掲示し、遊びの場面などの子どもたちの姿から、今の発達段階や、5歳時までの発達の連続性などを伝えた。 ■人と関わる力（協同性や思いやり）について 1回め（6月頃）の保護者会で、子どもの実際の姿を見られる動画を使用したことは、保護者のニーズに合っていたようで、この時も、動画への期待感などから、参加者が増えた。 小さな子どもがいても参加しやすいよう、保育を行った。
保護者の感想・様子	<ul style="list-style-type: none"> ■安全基地（信頼関係）を育むこと、子ども同士の関わりについて 「喜んで登園している姿は、心が安定している証だという事を感じ、子どもとのスキンシップをより持てるように意識したい」、「つつい大人が声をかけてしまうが、子どもなりにいろいろ考えていることが、動画を通してよく分かった」などの意見があり、見守ることも大切な関わり方の一つであることを理解してもらえた。 ■遊びの中で育まれる未来に向かう力について 「ドキュメンテーションを通して、未来に向かう力の説明を聞くことで、とても分かりやすく、我が子の姿と照らし合わせて考えることができた」 「お話を聞いて、『そういうことだったのか……』と、子どもの様子を思い返して、つないで考えることができた」などの感想があった。 ■人と関わる力（協同性や思いやり）について 人と関わる力が育っていることを発信した内容であったため、自分の子どもだけでなく、他の子どもの成長も感じる機会となった。また、そのことにより、一層、自分の子どもの成長を実感している様子が見られた。

※ドキュメンテーション：日々の記録や、実践を写真などに残し、可視化したもの（写真参照）



●個別相談、家庭訪問による支援

個別相談

取組み		子育て相談室での個別相談
実施場所		子育て相談室
対象者		0歳と2歳児の保護者
実施にあたっての取組み例	講師等	子育て相談室スタッフ
	主な内容	子育てについての相談の中で、参考になる資料としてリーフレットを紹介し、乳幼児期（0～2歳ごろ）に大切な関わり方を伝える
	リーフレットの関連するところ	5～6ページ
	話す内容	<p>まず、リーフレット5～6ページを一通り読んで伝える。その後、子育てについての保護者との会話の中で、家庭の実情に応じた具体的な話をする。</p> <p>例えば、保護者から「日頃から、何でも自分でしたがる子どもが、遊んでいる途中で、うまくいかない時に泣き叫ぶことがある」と聞いた後には、関連するページを紹介しながら、「うまくいかない時は、一緒にしたり、励ましたり、手伝ってあげて、うまくいったらほめてあげてください」と伝える。</p>
	説明にあたっての工夫等	<p>来室されてから、しばらく会話をするなかで、特に困ったことがないことを確認した後で、「いいことが書いてありますので読んでみましょう」と言って、リーフレットの内容を順番に説明した。</p> <p>子どもの年齢に合わせて、リーフレット5～6ページ「乳幼児期（0～2歳ごろ）の大切なことって？」のところを一通り説明した後、子育てについての具体的な話をし、思いを共有する場面を設定する。</p> <p>親を孤立させない、寄り添う支援を大切にし、100%をめざさなくてもよいことを伝える。</p> <p>参加者募集の工夫として、SNSを活用し、日ごろよりつながりを持ち、親が気軽に悩みや困りごとを相談することができるよう、情報発信や、地道に寄り添う支援も心がけている。</p>
保護者の思い等		<p>・「自分（保護者）自身が我慢して、（子どもたちができることを見守り）待つということは、できる場面とできない場面がある。また、泣き止むことを待っていても泣きがエスカレートしてしまうこともあり、現実的には簡単にいかないことが多い」と話された。また、「理想に近づくには時間と忍耐、心の余裕が必要で、現実には厳しい」との感想をいただいた。それに対して、スタッフからは、「育児に正解はなく、子どもに寄り添うことが大切で、それで充分、頑張っていることを自分自身認めてあげてください」と伝えた。</p>

家庭訪問による支援

取組み		訪問型家庭教育支援での個別相談
実施場所		家庭
対象者		乳幼児の保護者
実施にあたっての取組み例	講師等	訪問型家庭教育支援員
	主な内容	子どもの気持ちを受けとめることなどの、未来に向かう力につながる関わり方について
	リーフレットの関連するところ	7～9ページ
	話す内容	<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔で子どもの気持ちに寄り添うことが、子どもの安心につながる ・子どもへの共感がエネルギーの補充になる ・子どもは気持ちを聞いてもらえたことだけで、充足感が得られる
	説明にあたっての工夫	<p>訪問型の家庭教育支援を行う際に、タイミングを見て保護者に啓発する。</p> <p>例えば、子育てに課題をもつ保護者に対して訪問型支援を行う中で、「朝からガミガミ叱るより、前向きな声かけをした時の方がスムーズに準備をしていた」</p> <p>「きょうだいげんかしたときに、一人ずつ話を聞いたら、いつもは納得しない上の子がすぐ納得した顔をしていた」</p> <p>など、未来に向かう力の項目に関する話を保護者自身がする場面がある。</p> <p>そのようなタイミングを見過ごさずに、「それって、本当に大切なことですよ。そうしたことが力になって子どもが育っていくんですよ。そうしたことが続けていけるといいですよ」というように、支援者自らの思いも含めながら、さりげなく触れ、保護者が自分の行動を肯定できるよう働きかける。</p> <p>その際、「こんなことも書いているものがあるよ」とリーフレットを紹介する方法もある。</p>
保護者の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者は、自分がとった行動が肯定されたことで、ものすごく嬉しい表情を見せた。また、そののち子どもを優しく見送るようになるなど、行動の変容も見られた。 	



自

親

訪

幼

健

グ

産後ケアとしての家庭訪問による支援

取組み		産後ケアとしての家庭訪問による支援
実施場所		家庭
対象者		3か月児の保護者
実施にあたっての取組み例	講師等	子育て支援のスタッフ
	主な内容	安全基地の大切さと、それを育むための関わり方について伝える
	リーフレットの関連するところ	2～6ページ
	話す内容	<ul style="list-style-type: none"> ・泣いている時は声をかけ、そばにいることを伝え安心させてあげること ・困っているときにそばにいてくれると、子どもは安心する。困ったときにすぐに助けてくれる、その積み重ねで愛着が形成され、子どもの心のよりどころである安全基地になっていくということ ・安全基地が育まれることで、子どもたちの未来に向かう力が育つということ
	説明にあたっての工夫	<p>・家庭訪問し、産後、家庭で子どもと過ごされている状況を伺う中で、悩みの緩和に資するよう、悩みに対応するリーフレットの記載内容を説明した。具体的には、保護者から「子どもを産んでみると子育ては大変で、コロナ禍の影響で親も助けに来てもらえない状況で、どのように育てればいいのかわからない、声のかけ方もわからない、育てる自信がなく不安である」と相談を受けた後で、安全基地について話した。</p>
支援者の感想		<p>・普段の声かけで、子どもに寄り添うことが大切であるということ、また、子どもの気持ちを含み取り、わかろうとすることが大切で、その積み重ねが「未来に向かう力」の育みにつながることを理解いただけたようである。</p>

自

親

訪

幼

健

グ

●乳幼児定期健診

1歳6か月健診

取組み		乳幼児定期健診での相談
実施場所		保健センター
対象者		1歳6か月児の保護者
実施にあたっての取組み例	講師等	保健師
	主な内容	安全基地や未来に向かう力に含まれる様々な力について、保護者からの子育ての相談内容に合わせて伝える
	リーフレットの関連するところ	保護者の相談内容に応じたページ (例) 子どものやりたい遊びに関することについては7ページ
	話す内容	保護者の相談内容に応じて話す。 (例) 子どものやりたい遊びについて 子どもが積み木で遊ぼうとする時に、散らかさないようにとつい怒ってしまいがちだという保護者には、子どもがやろうとしていることを見守ったり、できたときにほめたりすることの大切さを伝える。 (例) 食事について 子どもの食事（ミルクや離乳食など）の相談をする保護者には、食事についてのアドバイスをしながら、子どもが3食食べるようになった時には特に朝食が重要であることなどを伝える。
	説明にあたっての工夫	・個別相談場面で、保護者から相談のあった内容に合わせて、リーフレットの該当ページを一緒に見ながら保健指導をおこなった。
保護者の感想		・「普段やっている対応が、ちゃんと子どもの力になっていて自信ができました」 ・「（リーフレットに書いている対応を）一度やってみます」



自

親

訪

幼

健

グ

●保護者支援に関わる方への研修会

未来に向かう力について学ぶ研修会

自
親
訪
幼
健
グ

取組み		未来に向かう力の基本を学ぶための、様々な支援者対象の研修会
実施場所		ホール
対象者		親学習リーダー、訪問型家庭教育支援員、幼稚園・保育所・認定こども園の教職員、保健師、自治体職員、その他子育て支援に関わる関係者
研修会の具体的な内容	講師等	森口 佑介 さん（京都大学大学院 准教授）
	主な内容	未来に向かう力とはどのようなものか、それに含まれる力についてどうやって育むのかなどの、未来に向かう力の基本的な内容
	リーフレットの関連するところ	全ページ
	講演内容	<p>※ここで記す「未来に向かう力」、「非認知能力」、「社会情動的スキル」は、同じような力（スキル）を表した言葉である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非認知能力…認知能力（記憶力・推論する力など）以外のスキル。 ・OECDの研究報告書に記されている社会情動的スキルについて…認知スキルと社会情動的スキルは密に関連している。 ・非認知能力が注目される理由…子どもの将来を予測する。 IQよりも、支援や訓練をしやすい。 ・幼児期の社会情動的スキルについて…安全基地を土台として育まれる。 例：自他関係としての思いやり、自制心、他者理解など。 ・安全基地（アタッチメント）について…回避型、安定型、両価型。 ・思いやりについて…1歳ごろから思いやりを示す。 20か月児では、ご褒美をあげたら援助行動（困っている人を助けようとする行動）が減る。 ・思いやりの発達…誰に対しても親切な状況から、選択的な親切や評判のための親切へ。 ・向社会的行動とアウトカム…向社会的な子どもは後に学業成績が良く、友人からも好まれる。 ・向社会的行動の個人内安定について ・実行機能（自己をコントロールする力、がまんする力）と後の人生について ・感情面と思考面の実行機能について 感情面について…2歳から4歳で衝動性を抑えられるようになる。 明日まで待てるのは8歳から9歳ごろから。 青年期は、もっともがまんが苦手になる。



	<ul style="list-style-type: none"> ・実行機能を育むために <ul style="list-style-type: none"> …夜寝る時間が大事。 目的なくテレビを見続けるのはよくない（2時間以内に抑える）。 子どもが自分で考えることが大事。 適切な範囲で厳しいしつけも必要（ただし体罰は絶対ダメ）。 ごっこ遊び（身体活動、ルールの順守、柔軟性などの要素）。 運動や音楽。
参加者募集にあたっての工夫	<p>関係各課で連携して、次のように参加者募集を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援主管課から親学習リーダーと訪問型家庭教育支援員へ ・幼稚園主管課から各幼稚園（公立・私立含む）へ ・保育等主管課から保育所・認定こども園へ ・福祉主管課から民生・児童委員や地域の子育て講座関係者へ（その他の工夫） <p>★講師の了承を得て、当日動画をライブ配信するといった工夫をすることもできる。</p>
参加者の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの参加者が未来に向かう力（非認知能力）を育むことについて大事であると感じてくれた。 ・幼児教育・保育に携わる者が乳幼児期に未来に向かう力（非認知能力）を育むことを意識し、乳幼児期の関わりが青年期にもつながる大切な時期であると認識していた。 ・子どもにとっての安全基地の重要性も意識し、保護者だけではなく、子どものまわりにいる人がその役割を担っていくことができると再認識していた。 ・保護者にもその重要性を伝えていきたいと感じてくれた。



親学習教材『自信をもつ』『かかわる』についての研修会

取組み	未来に向かう力育成に関する親学習教材のうち『自信をもつ』『かかわる』についての研修会	
実施場所	生涯学習・地域コミュニティー施設	
対象者	親学習リーダー候補者	
研修会での取組み例	講師等	親学習リーダー
	主な内容	親学習教材『自信をもつ』『かかわる』を使う親学習の実施に向け、進行役としての模擬実施を通じて進行などを考える
	リーフレットの関連するところ	7～9ページ
	講座の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ● 概要説明 <ul style="list-style-type: none"> ・研修の趣旨説明。 ・親学習についての概要説明。 ・リーフレット『乳幼児期に育みたい！未来に向かう力』の紹介。 ● 導入 <ul style="list-style-type: none"> ・親学習リーダーの自己紹介。 ・親学習のルール「参加」「尊重」「守秘」「時間」についての説明。 ・アイスブレイキング「後だしジャンケン」のデモンストレーション。 ・4～6名のグループに分かれる。 ・グループ内でのメンバーの自己紹介。 ● グループワーク1 <ul style="list-style-type: none"> 【親学習体験】 ・親学習教材「見守る」の写真を見て、どのような場面なのかと想像したことや気付いたことを話し合う。 ・「どんな季節の、どんな時間帯の、どんなシチュエーションか」考えた意見を付箋に書き、それを模造紙に貼りながら話し合いを進める、付箋を使ったワークを行う。 ・「写真に写っている子どもがどんな気持ちか想像してみよう」意見を交流し、似た意見をまとめていく。 ● グループワーク2 <ul style="list-style-type: none"> 【模擬親学習】 ・親学習リーダー候補が、親学習リーダー役と参加者役に分かれて、役割分担をしながら親学習を模擬体験。 <p>※それぞれの班で『自信をもつ』『かかわる』いずれかの教材を活用。</p>



	<p>(模擬親学習の流れ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・親学習のルール「参加」「尊重」「守秘」「時間」についての説明。 ・アイスブレイキング「後だしジャンケン」。 ・エピソードを読む。 “黙読”と“参加者が区切って順に読んでいく”方法を実施。 ・親学習リーダーのファシリテートのもと、意見を出し合い交流する。 <p>★『自信をもつ』の場合</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「エピソードで気になった所はどこでしょうか？」 ②「普段お手伝いをさせていますか。どんなことを工夫していますか？」 ③「自信をもたせるためにどんなことが必要でしょうか？」 <p>★『かかわる』の場合</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「エピソードで気になった所はどこでしょうか？」 ②「さやかちゃんやすぐるくんの気持ちを考えてみましょう」 ③「ちずるさんやスタッフの声かけについて考えてみましょう」 ④「子どもたちの『かかわる』力を育むためにどんなことが必要でしょうか？」 <ul style="list-style-type: none"> ●リーフレット『乳幼児期に育みたい！未来に向かう力』の再確認 ・それぞれのグループで『自信をもつ』『かかわる』の該当ページの内容について再確認をする。 ●ふりかえり ・親学習体験も含めて、本研修について参加者が順に話す。
<p>研修を行うにあたっての工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の中でグループワークを行うため、受付の時に班を指定した。 ・親学習をファシリテートするにあたっての心構えをアドバイスした。 「子どもをたたく」など、虐待につながる発言については共感せずに「他の方法は何かあるかな」など、たたく以外での対処法について考えさせるような問いかけを心がけた。 ・親学習リーダー候補に対して、自治体担当者から直接声をかけ、今後の活動につながるように働きかけた。
<p>参加者の感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「一通りの流れを体験できたのがよかった」 ・「人の感じや思いが色々であり、大変勉強になった。子に対する考え方や対応も今後の活動に役立てられる研修だった」

親学習教材『がまんする』についての研修会

取組み	未来に向かう力の育成に関する親学習教材のうち『がまんする』についての研修会							
実施場所	研修室							
対象者	親学習リーダー、自治体職員							
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; font-weight: bold; margin-right: 10px;">研修会での取組み例</div> <div style="flex: 1;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td data-bbox="248 486 523 560"> 講師等 </td> <td data-bbox="523 486 1445 560"> 大阪府教育庁職員 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="248 560 523 656"> 主な内容 </td> <td data-bbox="523 560 1445 656"> 親学習教材『がまんする』を使う親学習の実施に向け、参加者役としての体験を通じて進行などを考える </td> </tr> <tr> <td data-bbox="248 656 523 752"> リーフレットの関連するところ </td> <td data-bbox="523 656 1445 752"> 全ページ </td> </tr> <tr> <td data-bbox="248 752 523 1615"> 研修の流れ </td> <td data-bbox="523 752 1445 1615"> <ul style="list-style-type: none"> ・リーフレット『乳幼児期に育みたい！未来に向かう力』を使い、未来に向かう力に含まれるそれぞれの力の説明や、未来に向かう力を育むための関わり方の例を紹介。 ・グループワークを行うため、4人グループをつくり、グループ内で自己紹介。 ・親学習教材『がまんする』のエピソードを読む。 ・グループワークのポイント①「エピソードを読んで気になるところはどこでしょうか？」について、グループで話し合う。 ・グループワークのポイント②「さなえさんの思いについて、どう感じましたか？」について、まずはさなえさんの思いについて話し合う。次に、特に気になった場面について、さなえさんの思いを考える。 ・グループワークのポイント③「どのような『がまん』が、成長に大切だと思いますか？」について、付箋のワークを行う。まず、付箋を使ったワークの方法（『がまんする』指導事例7ページ参照）を説明する。次に、各自で、成長に大切だと思うがまんを、付箋に書きこむ。その後、付箋に書いた意見を模造紙に貼りながら紹介し合い、最後に、同じような意見をまとめる。 ・他のグループが話しあって作成した模造紙を、時間をとって互いに見に行く。 <p>※他の教材についても、これと同様に、親学習リーダー自身が参加者役となって体験することで、研修を実施することができる。</p> </td> </tr> </table> </div> </div>	講師等	大阪府教育庁職員	主な内容	親学習教材『がまんする』を使う親学習の実施に向け、参加者役としての体験を通じて進行などを考える	リーフレットの関連するところ	全ページ	研修の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ・リーフレット『乳幼児期に育みたい！未来に向かう力』を使い、未来に向かう力に含まれるそれぞれの力の説明や、未来に向かう力を育むための関わり方の例を紹介。 ・グループワークを行うため、4人グループをつくり、グループ内で自己紹介。 ・親学習教材『がまんする』のエピソードを読む。 ・グループワークのポイント①「エピソードを読んで気になるところはどこでしょうか？」について、グループで話し合う。 ・グループワークのポイント②「さなえさんの思いについて、どう感じましたか？」について、まずはさなえさんの思いについて話し合う。次に、特に気になった場面について、さなえさんの思いを考える。 ・グループワークのポイント③「どのような『がまん』が、成長に大切だと思いますか？」について、付箋のワークを行う。まず、付箋を使ったワークの方法（『がまんする』指導事例7ページ参照）を説明する。次に、各自で、成長に大切だと思うがまんを、付箋に書きこむ。その後、付箋に書いた意見を模造紙に貼りながら紹介し合い、最後に、同じような意見をまとめる。 ・他のグループが話しあって作成した模造紙を、時間をとって互いに見に行く。 <p>※他の教材についても、これと同様に、親学習リーダー自身が参加者役となって体験することで、研修を実施することができる。</p>
講師等	大阪府教育庁職員							
主な内容	親学習教材『がまんする』を使う親学習の実施に向け、参加者役としての体験を通じて進行などを考える							
リーフレットの関連するところ	全ページ							
研修の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ・リーフレット『乳幼児期に育みたい！未来に向かう力』を使い、未来に向かう力に含まれるそれぞれの力の説明や、未来に向かう力を育むための関わり方の例を紹介。 ・グループワークを行うため、4人グループをつくり、グループ内で自己紹介。 ・親学習教材『がまんする』のエピソードを読む。 ・グループワークのポイント①「エピソードを読んで気になるところはどこでしょうか？」について、グループで話し合う。 ・グループワークのポイント②「さなえさんの思いについて、どう感じましたか？」について、まずはさなえさんの思いについて話し合う。次に、特に気になった場面について、さなえさんの思いを考える。 ・グループワークのポイント③「どのような『がまん』が、成長に大切だと思いますか？」について、付箋のワークを行う。まず、付箋を使ったワークの方法（『がまんする』指導事例7ページ参照）を説明する。次に、各自で、成長に大切だと思うがまんを、付箋に書きこむ。その後、付箋に書いた意見を模造紙に貼りながら紹介し合い、最後に、同じような意見をまとめる。 ・他のグループが話しあって作成した模造紙を、時間をとって互いに見に行く。 <p>※他の教材についても、これと同様に、親学習リーダー自身が参加者役となって体験することで、研修を実施することができる。</p>							
参加者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・「今日のエピソード『がまんする』についてぜひ使わせていただき、子育て中のお母さんの反応を伺ってみたいと思います」 ・「一つの教材のエピソードでも、引っかかるところがそれぞれ違い、気になる対応、声掛けがいろいろあることがわかりました。立場が違くと、考えも違うことも、当たり前ですが実感しました」 ・「新しい教材なので、どう進めていけばいいのか不安だったけど、グループの皆さんの具体的な話が聞けて良かったです。付箋のワークも文字で書いて、グループごとにまとめると、とても分かりやすく、今後の参考にしていけると思いました」 							



自

親

訪

幼

健

グ

訪問型家庭教育支援員等への研修会

取組み		保護者支援の方法や、未来に向かう力の育成についての研修会
実施場所		小ホール
対象者		訪問型家庭教育支援員、幼稚園・保育所・認定こども園の教職員、保健師、自治体職員、その他子育て支援に関わる関係者
研修会の具体的な内容	講師等	・大阪府教育庁職員 ・津村 薫 さん（フェリアン副所長）
	主な内容	保護者の心に届ける支援について 未来に向かう力を育む、子どもの気持ちに寄り添う関わり方について
	リーフレットの関連するところ	全ページ
	研修の流れ	大阪府教育庁職員から、リーフレット『乳幼児期に育みたい！未来に向かう力』について説明後、津村講師から「保護者の心に届ける支援について 子どもの気持ちに寄り添うために」をテーマに講演いただき、未来に向かう力（非認知能力）の育成やケースワークの基本について学んだ。
	講演内容	<p><大阪府教育庁職員より></p> <ul style="list-style-type: none"> ・リーフレットに示されている、未来に向かう力とはどのようなものかという説明や、子どもとの関わり方の例について。 <p><津村 薫 講師より></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者支援への理解を深め、支援の基本姿勢を確認する 子育て支援が必要になった背景、子育て支援で指摘されている問題点や支援の基本姿勢等。 ・バイステックの七原則（ケースワークの原則）について ・子どもの気持ちに寄り添うために 子どもの発達の理解や、発達に応じた関わり方について。 自信を育む（基本的信頼）・自律を身に付ける（自己コントロール）・意欲を育む（自発性）。 ・より良い支援のために 自身のスキルアップとメンテナンスを大切にすること等。
	参加者募集にあたっての工夫	研修会の周知に関する依頼文やチラシを作成し、乳幼児家庭に関わる機会の多い機関を中心に、会議等を活用し、子育て支援に関わる関係者に広く周知を行った。
参加者の反応		具体的で、分かりやすい講演であり、支援者がこれまで行ってきた保護者や子どもとの関わり方について、メンテナンスができ、日々の業務を見つめ直すきっかけとなったという声が多数あった。

自

親

訪

幼

健

グ

幼稚園・保育所・認定こども園の教職員への動画配信による研修

取組み		未来に向かう力やリーフレットについての、幼稚園・保育所・認定こども園の教職員研修会
実施場所		各園所（動画の視聴）
対象者		幼稚園・保育所・認定こども園の園所長、及び教職員
研修の具体的な内容	講師等	教育委員会事務局指導主事
	主な内容	未来に向かう力やリーフレットの紹介 安全基地について 自尊心について
	リーフレットの関連するところ	全ページ
	説明内容	<ul style="list-style-type: none"> ・認知能力と非認知能力について ・未来に向かう力（非認知能力）は日常の子どもとの関わりの中で育まれること ・家庭が子どもの安全基地になってほしいことや、行政としてそのために保護者へ啓発する取組みを進めていること ・安全基地になるために、子どもに寄り添うことや見守ることの大切さについて ・赤ちゃんへの声かけが、子どもの成長に大切な自己肯定感を育むこと ・自己肯定感が、のちのしつけや学習に大きく影響すること ・子どもへの共感が子どものエネルギーの補充になること ・子どもが泣いている時に寄り添ってもらえた安心感について ・子どもが困ったときに甘えられることと、甘やかすことの違いについて
	参加者募集にあたっての工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・リーフレットの内容に沿った、音声付きのスライドを作成し、<u>動画配信サイトに限定公開し、視聴する形※</u>で研修を実施した。一定期間配信することで、全教職員を対象に実施することができた。 ※リーフレットを使った研修配信などをする場合、著作権等について、大阪府に内容の確認をお願いします。
	参加者の感想	<ul style="list-style-type: none"> ・「これまでも意識していたことを改めて見つめ直せた」 ・「園庭開放や懇談会などで保護者に啓発していきたい」 ・「とてもわかりやすい内容だった」 ・「非認知能力の大切さを改めて考えるきっかけとなった」

自

親

訪

幼

健

グ

研修会 アンケート

令和 年 月 日実施

本日の研修にご参加いただきありがとうございました。アンケートにご協力ください。

●あなたの該当する項目に○をご記入ください（複数回答有）

- () 親学習リーダー () 訪問型家庭教育支援チームリーダー・チーム員
() 民生委員・児童委員 () 保健師 () 行政職員
() 幼稚園・保育所・認定こども園職員 () 小・中・高・支援・義務教育学校教職員
() 子育て支援関係者 []
() その他 []

●本研修の開催は、どのようにして知りましたか。あてはまるものを○で囲んでください。

- ①職場からの情報 ②ホームページで知った ③友人・知人からの情報
④その他 ()

●今回の研修会について、あてはまるものを○で囲んでください。

1. 本研修の前から、「未来に向かう力（非認知能力）」について知っていた。
①よく知っていた ②概ね知っていた ③少し知っていた ④知らなかった
2. 「未来に向かう力（非認知能力）」を育むことは大事だと思った。
①そう思う ②まあそう思う ③あまり思わない ④全く思わない
3. 本日の学びを、ご自身の業務や活動の中で子育て家庭に伝えたいと思う。
①そう思う ②まあそう思う ③あまり思わない ④全く思わない
4. 本日の学びを、職場の同僚や活動の仲間に伝えたいと思う。
①そう思う ②まあそう思う ③あまり思わない ④全く思わない
5. ご自身の業務や活動の参考になった。
①そう思う ②まあそう思う ③あまり思わない ④全く思わない
6. 「未来に向かう力（非認知能力）」の育成を含め、子育て家庭への様々な支援を行うことは、子育てにやさしい地域づくりにつながると思う。
①そう思う ②まあそう思う ③あまり思わない ④全く思わない

●今回の内容についての感想をご記入ください。

○ご協力ありがとうございました。

生活アンケート

◆次の事柄について、あなたのご家庭で
あてはまる番号1つに○をつけてください。

している	どちらかと いえば、して いる	あまりして いない	全くしてい ない
------	-----------------------	--------------	-------------

- | | | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|---|---|
| ① 毎日子どもに朝食を食べさせている | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| ② 失敗しても努力する様子をほめるなど、努力や
最後までやり抜く大切さを子どもに伝えている . . . | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| ③ 子どものよいところをほめるなどして
自信を持たせるようにしている | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| ④ 子どもがやりたいことを尊重している | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| ⑤ どのように行動するかなど、子どもが選択したり
考えたりする場面をつくっている | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| ⑥ 子どもの気持ちを聞こうとしている | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| ⑦ 子どもが何かしている時は見守ったり、
困っている時は手伝ったりしている | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| ⑧ 地域社会の行事やボランティア活動等に、
子どもと一緒に参加している | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| ⑨ テレビ・ビデオ・動画を見たり、聞いたりする
時間などのルールを決めている | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
| ⑩ 絵本などの読み聞かせをしている | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |

◆次の事柄について、あなたにあてはまる番号
1つに○をつけてください。

あてはまる	どちらかと いえば、あて はまる	あまりあて はまらない	全くあては まらない
-------	------------------------	----------------	---------------

- | | | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|---|---|
| ⑪ 「未来に向かう力（非認知能力）」を
知っている | 1 | — | 2 | — | 3 | — | 4 |
|--|---|---|---|---|---|---|---|

●ICT を活用した研修等の開催方法

従来行われていた「対面研修」だけでなく、ICT を活用した「オンライン研修」や、その両方を同時に実施する研修の開催方法等があります。

(ア)参加者全員がオンラインにて受講する研修

主催者はオンラインで研修映像を配信し、参加者が自宅などの遠隔地から受講する研修方法。主催者は小規模の会議室等で開催することができ、大規模会場より安価に手配することが可能です。

また、使用するアプリケーション等によっては、オンライン上でグループを作成し、グループワークをすることも可能です。

一方で、例えば講師の方が参加者の反応を感じにくい等のデメリットや、実技の練習をする場合には工夫が必要になることもあります。

実施には、事前の接続テストを行うなどの準備が必要です。



(イ)会場とオンラインの同時開催による研修

主催者は対面研修を実施し、その様子をカメラやマイクを使用してオンライン環境に配信する研修方法。

受講者は対面研修に参加するか、ライブ配信された映像を視聴することで研修を受けることができます。

グループワークを行う際には、対面参加者同士のグループと、オンライン参加者同士のグループにわけて実施することができます。

実施には、事前の接続テストや、対面とオンラインの両方の受講者がいることを想定した研修を行うなどの配慮が必要です。



(ウ)動画配信による研修

あらかじめ作成した動画を配信サイトにて公開し、参加者にその URL を周知することで実施する研修方法。

URL を周知した人だけが見ることのできる限定公開という方法もあります。配信期間を設けて、その期間が終了すると視聴できないよう設定することもできます。

配信期間中は、視聴者の好きなタイミングで見ることが可能で、もう一度見たい部分を繰り返し確認できるなど、自分のペースで受講できます。



準備物(例)

機材	(ア)全員オンライン	(イ)同時開催	(ウ)動画配信
ノートPC等	○	○	○
Webカメラ	○		
ビデオカメラ		○	○
三脚		○	(○)
マイク (ピンマイク)	○	○	(○)
HDMI キャプチャー(※)		○	

(※) ビデオカメラ等で撮影している動画を PC に転送する際に必要なアダプタ

○使用する機器や遠隔教育システムの活用などについては、「新時代の学びにおける先端技術導入実証研究事業(遠隔教育システムの効果的な活用に関する実証)」をご覧ください。(48 ページにリンクを記載)

○使用する機器やアプリケーション等により、設定できることや使用方法が異なります。詳細は使用する機器等をご確認ください。

●家庭教育支援・子育て支援に関するリンク集

・子供たちの未来をはぐくむ家庭教育(文部科学省)

家庭教育支援についての各種資料や取組み事例などが掲載されています。

<https://katei.mext.go.jp/index.html>

・幼児教育について／子供の学び応援サイト～学習支援ポータルサイト～(文部科学省)

家庭での遊びや過ごし方の具体例、幼児と一緒に遊ぶ時の配慮、幼稚園や認定こども園で実践されている、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら幼児を健やかに育て、様々に工夫された取組み等の情報が掲載されています。

https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/gakusyushien/mext_00456.html

・新時代の学びにおける先端技術導入実証研究事業(遠隔教育システムの効果的な活用に関する実証)(文部科学省)

オンラインを活用した遠隔教育システムについて、ガイドブック「遠隔教育システム活用ガイドブック第3版」や動画「始めよう遠隔教育」などが掲載されています。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00932.html

・よくわかる「子ども・子育て支援新制度」(内閣府)

認定こども園などの教育・保育の場について、認定について、施設などの利用について、保育料について、地域の子育て支援の充実についてなど、「子ども・子育て支援新制度」についての情報が掲載されています。

<https://www8.cao.go.jp/shoushi/shinseido/sukusuku.html>

・大阪府婚活子育て応援サイト ふぁみなび(大阪府)

「ふぁみなび」は、結婚から子育てに関する事業の情報を集めたポータルサイトです。

<http://fami-navi.jp/>

・児童相談窓口(大阪府)

市区町村児童相談窓口や子ども家庭支援センター(児童相談所)の連絡先が掲載されています。

<https://www.pref.osaka.lg.jp/kateishien/jidosoudan/>

**未来に向かう力を育む
家庭教育支援・子育て支援に関わる方々のための手引書**

令和4年3月発行

編集・発行 大阪府教育庁市町村教育室地域教育振興課

〒540-0008 大阪市中央区大手前3丁目2-12

電話 06-6944-6901 FAX 06-6944-6902

<https://www.pref.osaka.lg.jp/chikikyoiku/kateikyousien/index.html>

